

尼崎市国際交流協会が50周年前夜祭を開催

ドイツ・アウクスブルク市との姉妹都市提携 50 周年を目前に控えた平成 21 年 3 月 15 日、尼崎市総合文化センター「玉翔の間」で、「ドイツふれあいデー」と題して前夜祭を開催しました。

主催の尼崎市国際交流協会は、昭和 54 年に尼崎市とドイツ・アウクスブルク市の姉妹都市提携 20 周年を機に来日されたハンス・プロイエル市長を歓迎する市民交流会がきっかけとなって設立されました。以来、同協会は尼崎市と協力しながら、アウクスブルク市との姉妹都市交流を活発に行ってきました。こうした経緯から、同協会は平成 21 年 4 月 7 日の姉妹都市提携 50 周年に向けて、今回の前夜祭を企画し、当日は 113 人の参加者が集まる盛大な会となりました。

前夜祭のオープニングは、アウクスブルク出身の音楽家レオポルト・モーツァルトの「おもちゃの交響曲」のピアノ演奏で幕を開けました。



オープニングのピアノ演奏

次に、主催者を代表して、同協会の阪下^{かある}副会長から、また来賓を代表して、白井文尼崎市長とクリスティーナ・ヴェルトドイツ連邦共和国総領事館員からそれぞれ挨拶がありました。



白井市長



ヴェルトドイツ連邦共和国総領事館員(右)

続いて、ドイツ連邦共和国総領事館員のヴェルト氏による「プロースト」(ドイツ語で「乾杯」という意味)という発声で乾杯しました。また、来賓紹介のあと、4 月にアウクスブルク市を訪問する大正琴バンド「万華鏡」の皆様がドイツ国歌やローレライ等 4 曲を演奏しました。バンドのメンバー 11 名は、平成 21 年 4 月にアウクスブルク春の見本市日本展で演奏会を行っています。(詳しくは 3 ページをご覧ください。)



大正琴バンド「万華鏡」の演奏

参加者はドイツ風料理、ドイツビール・ワインを味わいながら、歓談し、交流の輪が広がりました。



歓談風景

会場にはアウクスブルク市からいただいた記念品等の展示コーナーも設けられ、多くの参加者の目を引いていました。



展示品を見学する参加者